

# ドイツにおける終日制学校とシュポルトフェラインとの協力に関する研究

## －関係者の内実に着目して－

藤澤潤 （ 東京学芸大学大学院 ）

### 1. 目的

本研究の目的は、ドイツの終日制学校（Ganztagsschule、以下GS）とシュポルトフェライン（Sportverein、以下SV）とが協力して提供する運動・遊び・スポーツプログラム（以下BeSS）で求められていることを明らかにし、それを踏まえて実際の協力の内実を明らかにすることである。

### 2. 研究方法

#### 1) 文献による検討

- ①. 対象文献：ドイツの学校スポーツに関する定期行物「sportunterricht」
- ②. 収集対象期間：2003年～2016年
- ③. 分析方法：定量的分析（スポーツの目的を表す語の出現回数のカウント）と質的な内容の分析

#### 2) インタビュー調査による検討

- ①. 調査対象校：ノルトラインウエストファーレン州の終日制基礎学校 H校
- ②. 調査方法：半構造化インタビュー法
- ③. インタビュー対象者：終日制学校側6名（学校長、スポーツ教師、教育者）とシュポルトフェライン側3名（ハンドボール、卓球、柔道）

#### 3) 1)、2)を総合的に考察

### 3. 結果と考察

- 1) 文献による検討の結果、GSとSVとが協力して提供するBeSSでは、以下の点が求められていることが整理された。それは、①余暇時間の充実②子どものからだに関する問題への対応③競技スポーツのための才能発掘と育成④全人教育である。そしてこれらを達成するため、余暇・大衆スポーツ志向で行うことが求められている。
- 2) インタビュー調査の結果、GSと卓球及びハンドボールフェラインとの協力は、「シュ

ポルトフェラインの目標を双方が共有した『協働』、GSと柔道フェラインとの協力は、「双方の目標を共有した『協働』」になっている。

- 3) GSは、家庭環境の違いに関わらずどの子どももスポーツに親しめるプログラムを提供できるようにSVを積極的に呼び込み、また放課後もSVでスポーツができるように子どもとSVとをつなぐ、「スポーツのプラットフォーム」の役割を果たしていると考えられる。
- 4) H校とSVとの「協働」を促進している要因は、H校が「開かれた学校」としてあるようにしているためであると考えられる。
- 5) SVの指導者は内容論・方法論レベルで余暇・大衆スポーツ志向のプログラムを考えて、取り組んでいる。

### 4. 結論

本研究では、ドイツで拡大を続ける終日制学校と、地域の主なスポーツの場であるシュポルトフェラインとの協働に関して文献と関係者へのインタビューからその内実を明らかにした。この知見は、今後日本で求められている学校と地域の協働・連携の在り方に示唆を与えられると考えられる。

### 5. 主な参考文献

- 1) 藤井雅人ら(2012)ドイツの子どものからだをめぐる問題とその対策としての自由参加型終日制学校. 福岡大学スポーツ科学研究, 42(2): 25-51.
- 2) Neuber, N. et. al (2013) Ganztag und Sport. In: Schmidt, W., Neuber, N., Rauschenbach, T., Brandl-Bredenbeck, H.P., Süßenbach, J. und Breuer, C. (Hrsg.) Dritter Deutscher Kinder- und Jugendsportbericht, Hofmann-Verlag, Schorndorf.